特集1/シンポジウム「人口減少下でいかに地域を持続させるか」 未来カルテデータを用いた未来ワークショップ

――公共的市民育成のための新しいプログラム

千葉大学大学院社会科学院特任研究員 宮﨑 文彦

## 未来予測を用いた中高生ワークショップ

引き続きまして、未来ワークショップについて報告させていただきます。先ほど倉阪先生からご紹介いただきました未来カルテは、確かに未来の予測ではありますが、必ずこうなるというものではなく、あくまでもこのまま何もしなければこのようになってしまうかもしれませんという予測のデータです。そのため、ではこのようにならないようにするには、一体どうしたらよいのだろうかということを考える必要があります。

その際に政治家に任せて、政治家にどうにかしてもらうというのではなく、 どのように対処してゆけばよいかをみんなで考えましょうというワークショップが、この未来ワークショップである、というようにご理解いただけますとありがたいです。

未来ワークショップには3つの特徴があると思います。すなわち、①中高生に②未来シミュレータ(未来カルテ)の結果を参考に③未来市長として課題と政策を考えてもらい、現市長に提言してもらうというものです。それぞれ説明しますと、1つ目は、対象を中高生にしていることです。これには主として2つの理由がありまして、1つ目は中高生は2040年に40代になり働き盛りで社会の中核となる世代であろうということ、もうひとつは未来市長というところに関わっていますが、職業に従事していますとどうしても何らかの偏りや自分の身近なところや自分の利害に関わるところについて中心に考えがちですが、そのようなしがらみがないため、市全体のことを考えることができるのではないか、ということで中高生を対象にしています。

2つ目は未来シミュレータを使っている点です。このような中高生を対象にした「まちづくりワークショップ」は、実は全国各地ですでにかなりたくさん行われています。その意味では未来ワークショップはあまり独自なものではないように思われますが、私たちのワークショップにはこのような未来の予測があることが、大きな違いです。それによって、今現在のよいところと悪いところではなく、未来の自分たちが住んでいる自治体がこのままいくとこのようになってしまうかもしれないということが具体的な数値として示されます。ですので、現在のよいところを伸ばしてゆけば、明るい未来が開けるということだけではなく、様々な問題にも直面するので、その問題にどのように取り組んでいかなくてはいけないのかについても考えることができる。この点が、他のまちづくりワークショップとは異なり、意味のあるものとしているのではないかと思っています。

最後に未来市長という点ですが、単なる理想の未来像ではなく、このままいくとこのような問題に直面するので、今からこのように取り組んでいきましょうと考えることができることが、この未来ワークショップの非常に大きな特徴ではないかと思います。

## 未来ワークショップの開催状況

先ほど倉阪先生からのご紹介いただきましたが、このプロジェクトとしましては、市原市、八千代市、館山市の3市と協力をして開催させていただきました。その後このプロジェクトを継続していくためにNPO法人(地域持続研究所)が立ち上げられ、松戸市からご依頼をいただき10月14日に「まつど未来ワークショップ」を開催させていただきました。また、間もなく奈良市でも再生エネルギーに特化したかたちになりますが、未来ワークショップを開催させていただく予定です。

これまで開催したワークショップを表1に整理しました。上から2段目に開催地、3段目が開催日程です。市原市のワークショップでは、市内視察のプログラムを取り入れましたので2日間で開催し、その他のワークショップは1日

表 1 これまでの「未来ワークショップ」開催状況

いちはら未来ワーク ショップ	やちよ未来ワーク ショップ	たてやま未来ワーク ショップ	まつど未来ワーク ショップ(参考)
千葉県市原市	千葉県八千代市	千葉県館山市	千葉県松戸市
2015年8月19日(水)·20日 (木) 【2日間】	2016年11月23日(水·祝)	2017年8月7日 (月)	2017年10月14日 (土)
40名 (中学生39名、高校生1 名)	20名 (中学生11名、高校生9 名)	44名 (中学生30名、高校生14 名)	23名 (中学生14名、大学生9 名)
市内視察(南部、未来地図 を持ちながらの町歩き、里 山の暮らしを知る、北部臨 海部工業地帯)	つながり調査結果 農業、住宅団地の現状と将 来、多文化共生 将来に残したい歴史	つながり調査結果 館山市の産業 (漁業、観 光等) 、移住者受け入れ 歴史から未来を見つめる	未来カルテのみ
総合計画への反映。提言として出された「流しそうめん」大会を翌夏に開催。	参加証明書の発行を始める 歴史についての講義 市職員への提言の回覧	特別支援学校、海上技術 学校の生徒の参加、市民 報告会を2018年初頭に開 催予定	翌週に市の若手職員(28 名)を対象とするワーク ショップも開催

(出典) 著者作成

で開催しています。4段目に参加人数、5段目にはそれぞれのワークショップで独自に導入したものについて記載しており、市原市のワークショップでは市内視察として貸し切りバスを使って実際に視察に行ってもらいました。市原市の場合には、北部は臨海工業地帯で非常に発展していますが、南部は内陸部で人口減少が激しい地域になっていますので、南北の格差のようなものがあり、ある種日本の縮図のようなところでもあります。特に参加してくれた中高生はほとんどが北部の臨海工業地域に住んでいる生徒だったため、南部の様子も見てもらいこのような地域も抱えている市原市の将来をどのように考えていきましょうかということで、視察プログラムを組み込んだワークショップを開催しました。

八千代未来ワークショップでは、次にご紹介いただくつながり調査結果を盛り込み、さらに農業も盛んな地域であるため、そのようなことも知っていただくことや住宅団地発祥の地ということで、その住宅団地の現状と将来、それから最近ではその住宅団地に外国人の住人が増えているため、多文化共生についても話し合いました。市原のワークショップでは取り込みませんでしたが、八千代では歴史も取り込み、どのような歴史を残してゆきたいかについても考え

やちよ未来ワーク

ショップ

# 図1 やちよ未来ワークショップ

(2016.11.23)

(出典) 著者撮影

ていただきました。

館山ではつながり調査の他に歴史、館山市の産業として漁業、観光業、館山 市で特徴的なことは移住者の受け入れを積極的に行っていることです。松戸の ワークショップでは、未来カルテのみで開催させていただきました。

一番下の段には、その後の経緯について書かせていただいています。市原市では、総合計画への反映というかたちで活かされ、提言として出されました流しそうめん大会を翌年の2016年夏に開催することができました。八千代市の未来ワークショップでは、参加証明書の発行を開始し、これにつきましては後ほど説明いたします。歴史についての講義、結果については、実現可能なものはぜひ実現してくださいということで、市長より市の職員に回覧していただいたとお聞きしています。館山市の未来ワークショップはつい先日の開催のため、その後についてはまだお話できませんが、このワークショップについては、特別支援学校や海上技術学校の生徒にもご参加いただき、多様性が増しました。来年2月5日に市民に対する報告会の開催を予定しています。松戸市の未来ワークショップについては、若手の職員を対象にしたワークショップも開催した点が特徴的でした。

「やちよ未来ワークショップ」は図1のようなかたちで行われ、最後に市長

# | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 10

## 図2 「たてやま未来ワークショップ」提言まとめ

(出典) 研究班作成

に対して報告もしました。参加証明書については、市原のワークショップの際には発行しませんでしたが、八千代のワークショップを開催するにあたり、さまざまな高校や中学校を回って先生方とお話しをさせていただいた際、このような証明書があると推薦の際などにプラスになるとご示唆いただき、参加証明書を発行するようになりました。

開催の翌年1月10日に朝日新聞の千葉版に参加した生徒さんから未来予想 図というかたちで取り上げていただき、未来に向けたメッセージも記事に取り 上げていただきました。

今年(2017年)の夏に行われました館山の未来ワークショップは、かなり多くの生徒に参加していただき、同じようなかたちでの提言をしていただきまし

た。これだけ多くの提言が寄せられ、非常に貴重な機会になったのではないか と思っています(図 2)。メディアでは、NHKの首都圏ネットワークで放映さ れたほか、毎日新聞と地元の房日新聞でもご紹介いただきました。

このようなかたちで3年間にわたり開催してきた未来ワークショップですが、おおよそのフォーマットが出来上がっているのではないかと考えています。すなわち前半のインプットのプロセスと、後半のアウトプットのプロセスに大きく分けることができ、前半にインプットがあることがやはりこのワークショップの特徴ではないかと思います。未来の動態について知ってもらい、先ほどもご紹介しましたように各自治体の状況に合わせて特徴的なことについてご紹介いただき、参加者にインプットし、後半のアウトプットのプロセスにおいては、グループ作業をしていただき具体的な提言を考えていただく、このようなワークショップを展開しています。

## 通時的コミュニティ感覚と政治参加

さて、未来ワークショップを通じて、どのようなことがプラスの要素として 挙げられるかについてですが、先ほど倉阪先生からご紹介いただきました通時 的コミュニティ感覚が醸成されればよいのではないかと私たちはねらっていま す。これは、ケネス・ボールディングの「来たるべき宇宙船地球号の経済学」 (実はこのエッセイはなかなか見つかりにくいエッセイとして有名なようで、 公文俊平氏翻訳の『経済学を越えて』という書籍に収録されています)、ぜひこ ちらもお読みいただけるとよろしいかと思います。このような感覚を身につけ ることができれば、将来世代のこともきちんと考えることができるようになる と思います。

もっともこのような通時的コミュニティ感覚を身に着けるのはなかなか難しいかとも思いますが、おそらく以下の2点についてはこのワークショップを通じて醸成することができたのではないかと私自身は考えています。ひとつは、公共的な意識を涵養すること。この公共的意識とは、コミュニティへの帰属意識や自分自身の問題としてその解決に取り組む姿勢ということになるかと思い

ます。先ほどの広井先生のお話の中に、地元への意識が強まっているというお話があったと思います。傾向としてはあると思いますが、やはり多くの生徒にとって、特に地方の生徒はやはり東京がいい。東京は便利で大学はとりあえず東京に行きたい。そして東京で一様に慣れてしまうと、そのままいつ居てしまうこともあると思いますが、このワークショップを通じて、地元のことをよりよく知ることができたという生徒が非常に多いのです。そのような意識を育むには非常によいワークショップであったのではないかと思っています。

また、その中高生からの提言を受け止める現市長、あるいは我々大人世代に とっては、このワークショップを通じて、現世代の意思決定に将来世代の利害 を考慮に入れる機会を得ることができたのではないかと私自身は考えています。 ご存じのように、高校3年生は選挙権を得るようになったわけですが、中高生 の大半は選挙権を持っていないわけです。自分たちの将来に関わることにもか かわらず、彼(女)らはそういった意思決定に関わることができません。その ような世代が、将来どのようになるかを考え、このような問題があるのでこの ようにしてほしいということを伝えることができるということが、非常に大事 なことではないかと思っています。私は政治哲学が専門ですが、選挙だけがデ モクラシーではないと思っていることもあり、このようなさまざまな回路を通 じて、意思決定にさまざまな利害を反映させることがとても大事だと思ってい ます。その意味においても、このようなワークショップを行っていくことがと ても大事なことではないかと思っています。アンケート結果についてご紹介す ると、自分の市のことをもっと知りたいという意見や、貢献をしたいという意 識は非常に高まっているということがわかっています。館山市のワークショッ プの結果では、館山市の問題をもっと知りたいという生徒が70%、館山市に貢 献したいという生徒が89%もいました。

## 主権者としての意識を育む

このワークショップの意義として、先ほど少しデモクラシーの話をさせていただきましたが、最近非常に注目を集めているのが、「主権者教育」です。この

ようなワークショップを通じて、主権者としての意識を育むためにも非常によいのではないかと考えています。私としては、中高生の主体性、地域の一員としての意識、主権者意識が公共的市民としての意識を育むために非常に可能性を有しているのではないかと思っています。最後にひとつ、松戸市のワークショップの後に職員研修版を行いました。中高生を対象に行うことも良いことですが、市の若い職員の方々やあるいは市民の方でも20代や30代の方を対象にこのようなワークショップを行うと、効果的なのではないかと考えています。私の方からの報告は以上とさせていただきます。

(みやざき ふみひこ)